

有限会社石川運輸の巻

(野田市)



今年の夏は、西日本豪雨による土砂災害、台風21号による記録的な高潮と暴風、震度7強の北海道胆振東部地震など、全国各地で大規模で想定外の自然災害により甚大な被害を被りました。官民一体となって復旧・復興作業が進められていますが、お亡くなりになられた方のご冥福を祈るとともに、今なお避難生活を余儀なくされている被災者の方々が1日も早く笑顔で安心した生活を迎えられることを切に願うばかりです。

自然災害のみならず、社会情勢に目を向けますと、公平・公正でなくてはならないスポーツ界において次々と不祥事が発覚、後ろ向きな話題ばかりが先行しています。夏、高校野球は第100回記

念大会が開催され、「史上初2度目の春夏連覇、公立高校の躍進」と明るい話題もありました。2020東京オリンピック・パラリンピック開催まで2年を切る中、アスリートファーストの下、選手が真に競技へ集中できる環境づくりが求められています。日頃の努力の成果を十分に発揮し、より良い成績が残せるよう、スポーツ界が一体となって取り組んでいただきたいです。

☆☆☆

梅雨明けから日本列島は高気圧に覆われ、全国各地で連日の猛暑日となり、観測史上初となる40度を超える地域もあつて、例年になり酷暑の夏となりました。暦の上

たり地域経済の活性化に貢献してきた企業でもあります。

社員は私の財産と断言！

次に労働災害・安全運転に関する社員教育について伺いました。

安全講習は毎月開催していますと前置きをし、石川社長は「現場主義」を貫いていて社長自らが現場に赴き、技術指導はもろろのこと、常々ドライバーに「トラックを大切にすること」、「トラックは第二の家」と力説して意識改革に取り組んでいるそうです。ドライバー自らがトラックの整備・点検に当たり、大切に扱うこと、プロドライバーとしての自覚を生み、その結果、安全運転・燃費向上につながっていると話します。



▲出発を待つトラック

妥協を許さない日頃からの指導の積み重ねの成果もあり、大きな事故は発生していないとのことでした。

続いて、「社員とのコミュニ

では秋ですがまだまだ残暑が厳しい9月4日、第74回目の事業所訪問先として野田市に本社を置く有限会社石川運輸（石川勝也社長）を訪ねました。野田市は、千葉県の最北端の市であり、東を利根川、西を江戸川、南を利根運河と、三方を河川に囲まれる市です。室町時代には初めて醤油を醸造したと言われており、江戸時代には地の利を活かし江戸川を使ってその日のうちに江戸へ運べたこともあり急速に成長をとり、「醤油の街」として全国的に有名になりました。

石川運輸は野田市吉春に本社事務所を構えています。本日は春日部野田バイパスの東方、利根川を挟んで茨城県に程近い目吹営業所に伺いました。

「こんにちは健保組合です！」と事務所を訪ねると、業務ご多忙の中、今回の取材にご協力くださいました石川社長に出迎えられ取材を始めることとなりました。石川社長には、組合会議員として日頃から組合運営にご尽力をいただいています。

ニケーションはどのように工夫されていますか」とお聞きすると、積極的に話しかけること、食事に誘って日頃の労をねぎらっているとのことでした。気軽に話ができることは、仕事の目標の明確化、疑問の解消など、社員のモチベーションにもつながっていることでしょう。「社員は私の財産です」、「私は社員に恵まれています」と断言されたことで、労使の信頼の深さを確信し、改めて石川社長の社員愛に感銘を受けました。

家族と過ごす時間を大切に

最後に社長ご自身の健康管理についてお聞きしました。

「特段していません」と謙遜されましたが、毎年の健診は欠かすことなく受診し、ご自身の健康状態を把握しているご様子。健全経営に腐心されている石川社長ですが、ドライバーが足りないときは自らハンドルを握ることもあるそうです。私たちの想像以上に疲労とストレスを感じていることでしょ

半世紀にわたり「まごころ」を運び続け地域社会に貢献

初めに同社の社史と業務内容について伺いました。

石川運輸は昭和44年6月に設立され、来年50周年を迎えられます。（おめでとうございませす！）

設立のきっかけは、先代が父親から起業を勧められ、野田農協（当時）が地元で採れた新鮮な野菜を東京市場に配送するための運送事業をスタートしました。石川社長は2代目目のことですが、先代が長年にわたり築き上げた取引先との友好関係を今日まで継承し、野菜の他、果実の配送も手がけています。

う。そんな毎日の中で、ご家族と過ごす時間を大切にしているそうです。特に、ご令嬢とのゴルフやお出かけの機会も多いようで、「ストレスがかえって溜まりますよ」と冗談を交えつつも、微笑みながら話をされる様子から日常生活で自然と健康の維持管理が身につけているように感じました。石川社長には引き続き健康には十分に留意し、学生時代にラグビーで培った活気と活力を発揮していただくと共に、同社ならびに地域社会のますますの発展を祈念いたします。

☆☆☆

以心伝心も大切なことではありますが、今回の取材では特に「会話」、話し合うことの重要性を改めて教えていただき、私たちも教訓にしたいと感じました。取材の時間もあつという間に予定の時間をむかえ、石川運輸をあとにしました。

石川社長をはじめ社員の皆さま、ご協力ありがとうございました。



▲石川勝也社長